

	<p>鳳凰とライオンとトラの像</p> <p><b>Scenet 澤 寛</b></p>	<p>L-2</p> <p>発行日 2016年7月2 8日</p>
---	--	---

ロンドン・パラリンピックが終わった秋のある朝、アメリカのミシガン州にあるミッドランド図書館館長のホワイトさんは、姉妹都市の半田市から寄贈された鳳凰の像が消えていることに気づきました。

「そうだ、今日は半田市で山車祭りのある日だった。」とつぶやきました。

そうなのです。この週末は五年に一度の半田山車まつりの日でした。鳳凰像は五年に一度のこの週末には日本に帰っているようで、いなくなってしまうのです。

これから、このお話をしましょう。

名古屋城の見える大きな森には、動物園も植物園もあります。昔、その植物園のそばには、樹齢三百年ほどの太くて立派な、けやきの木が生えていました。けやきの木の下ではいつも子供たちが遊んでいました。また、日曜日には親子連れがお弁当を広げるような、心穏やかな、憩いの場所でした。動物園には象やカバのような大きな動物や、ライオンやトラのような猛獣も飼育されていました。珍しい動物がたくさん集められた豊かな動物園でした。

公園のそばの小さな家に、動物園で猛獣の世話をする父と母と、ただし、それに妹、りえと、四人が住んでいました。日曜日にはよく、けやきの下でお弁当を食べたり、また、みんなで動物園に出かけて、父が世話をしている、ライオンやトラを見に行ったりする仲の良い家族でした。ただし動物園で見た、珍しい動物を木彫りにするのが得意でした。家にはただしの彫ったライオンやトラなどの木彫りの動物が飾ってありました。

こんな平和な日本も、産業発展や海外進出が進むにつれて、いろいろな国と問題をおこすようになりました。さらに紛争解決を武力に訴えるようになって、ついに大きな戦争が起こってしまいました。たくさんの方が、この戦争は、アジアの人を植民地から解放する大切な戦争だといわれて、兵隊として駆り出されて行きました。でも、初めは解放のための聖戦と思っていた戦争は、実際には、現地の人を巻き込んで、人がお互いに殺しあう泥沼戦争になっていったのです。

初めは多くの戦線で勝利が伝えられていました。でも、日本は次第に劣勢になっていきました。海外の戦地に送られた兵隊たちが戦死し、それぞれの戦線で全滅し始めました。

日本の国土にも次第に攻撃が加わるようになり、国の活動がすべて戦争のために振り向けられるようになり、食べ物までも次第に手に入りにくくなってきました。

動物園で飼育されていた動物も、食糧不足と、爆弾でおりが壊れて猛獣が逃げ出して人に危害を加えては大変だという理由で殺害されることが決まりました。ただしの父にも、ずっと世話をしてきた動物を処分することが命じられました。大変悲しい仕事でしたが、

ライオン、トラ、クマが銃殺され、父の動物園での仕事は終わりました。その後、すぐ、召集令状に応じた父は南方で戦死してしまいました。

戦局は、日に日に悪化し、たくさんの爆弾が国内の都市にも連日落とされるようになってきました。早く戦争を終わらせるためとして、東京、大阪、名古屋をはじめとする大きな都市だけでなく、地方の町にも、主に兵器や飛行機などを作っている軍事工場を目標として、たくさんの爆弾や焼夷弾を落としました。

名古屋でも大空襲があり、一夜のうちに大量の爆弾や焼夷弾が落とされることが繰り返されました。公園のそばに住んでいたただしの家にも焼夷弾が落ちました。母は子供たちの手を引いて逃げました。逃げる途中、敵国の戦闘機の機銃掃射に会いました。母は子供たちをかばって、機銃掃射の弾に当たってしまいました。ただしとりえは、夢中で一生懸命走りました。そしてみんなとお弁当を食べた、あのけやきの木の下でうずくまって、空襲が去るのを待ちました。名古屋の町中の方角が真っ赤に住まって炎上しているのがわかりました。ふと、気づくと、ただしの右手は赤く染まっていました。ただしも機銃掃射で手に、傷を受けていました。りえは、シャツを細く裂いて兄の血止めをしました。

戦争は悲劇的な沖縄戦と、広島と長崎への原子爆弾の投下を受けて終わりました。

ただしの右手はけがの傷が膿んで、ひじのところから切断する手術でなくなっていました。でも、器用なただしは、木彫りの彫り師に入門してめきめき腕を上げ、大変、精緻な彫り物を作りあげるようになりました。そして彫師としての名前を彫正と名乗りました。彫正の名声は、日に日に上がっていきました。

戦争が終わって平和になった日本は急速に復興し、発展しました。町の道路整備も進みました。名古屋が復興して高速道路を作るとき、戦災の時、ただしとりえを包んでくれたあのけやきの木をどうしても伐らないといけないことになりました。

この話を聞いた彫正は、けやきの木をどうしても譲り受けたいと思いました。立派な彫刻には立派な木が必要です。またけやきの木は、白木の彫刻には欠かせない木です。

名古屋の南にある半田市にはたくさんの、白木の彫刻で飾られた山車があり、春の祭りでは、町内で引き回されます。

彫正は、あの戦争の時、殺されてしまった動物を彫刻として生き返らすことが、あの時なくなった動物の供養と信じていました。半田の山車の彫刻を頼まれたとき、すぐに、あのけやきで、ライオンとトラを彫ることにしました。ライオンとトラの彫刻は、それぞれ別々の山車に飾られました。また、半田市とアメリカのミシガン州にあるミッドランド市が姉妹都市になったとき、記念に木彫りの彫刻を送ることが決まりました。彫刻を依頼された彫正は、あのけやきの残り木を使って鳳凰を彫りました。

そうなのです。ライオンとトラと鳳凰は同じ、けやきから生まれた兄弟彫刻だったので

す。

半田では、五年に一度町中の山車が一か所に集まって行うお祭りががあります。普段は祭礼の日が違うのでライオンの山車とトラの山車が顔を合わせることはありませんが、この

日だけはライオンとトラとの彫刻が会合うのです。そしてミッドランドの鳳凰も飛んできて顔合わせをしているのです。

右手のない彫正さんはパラリンピックで手足のない人でも立派にスポーツを競い合っている光景を思い出しながら、目の前の自分の彫った木彫を見て、これまでの人生を振り返るのでした。